

CEL ホームページ

<https://www.og-cel.jp/>

エネルギー・文化研究所 (CEL) の活動内容や
情報誌「CEL」バックナンバーをご覧になれます。

※CEL ホームページに掲載する「読者アンケート」にご協力願います。
下記の二次元コードで読みとることもできます。



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/osakagas.cel>

note コラム

<https://note.com/ognwcel/>

volume131
September 2022

特集
持続可能な未来を考える

2022(令和4)年9月1日発行

発行 大阪ガスネットワーク(株)
エネルギー・文化研究所(CEL)
〒541-0046
大阪府大阪市中央区平野町4-1-2

発行人 金澤成子

企画・制作 熊走珠美

特集担当 前田章雄

編集人 日下部行洋(平凡社)

編集 株平凡社

アートディレクション
& デザイン okamoto tsuyoshi +

校正 (株)アンデバンダン

印刷・製本 (株)東京印書館

お問い合わせ窓口 大阪ガスビジネスクリエイト(株)
TEL 06-6205-4650
FAX 06-6205-4759
CEL@ogbc.co.jp

Research Institute for Culture, Energy and Life
©2022 OSAKA GAS NETWORK CO., LTD.

※禁無断転載複製
※本誌掲載の寄稿文、インタビュー、レポートなどの内容は
必ずしも大阪ガスネットワークの見解を示すものではありません。

CELからのメッセージ

持続可能な未来への第一歩

大阪ガスネットワーク(株)エネルギー・文化研究所
所長 金澤成子 Kanazawa Shigeko

環 境破壊、格差拡大、パンデミックの進行、そしてウクライナ情勢による地政学的リスクの高まりなど、国際社会が多くの苦難に直面するなか、持続可能な社会を切望する世界的な動きは止まることがない。にもかかわらず、日本は危機感の欠如からか、特に脱炭素経営については先進国の中でも大きな後れをとっている。こうした状況のなか、私たちはどのように考え、行動していくべきなのか、様々な分野で活躍する方々のお話をお聞きしました。

飛騨古川の伝統職人に若いクリエイターのアイデアを持ち込み、互いに学ぶことで未来の可能性を見出す機会を提供する、実業家の林千晶氏。「新しい変化を阻害するのは“かつての成功者”、革新をもたらすのは“前向きな逸脱者””という言葉が印象的でした。京都大学で開発された「プラ・イドチャート」は、プラスチックに関する意識・行動の可視化により、消費者・生産者・行政の対立しがちな関係性を、「共創」の第一歩まで近づけています。伝統産業の後継者不足を目の当たりにし、その価値を再定義することで、世界に誇るブランドを確立したシーラカンス食堂の小林新也氏。今は自ら里山再生で、人と自然が循環・育成される場づくりにも挑戦しています。

取材で訪れた飛騨古川では“ふるさと”の風景に魅せられ、「こうと(質素で上品)な暮らしに満足する町民のココロの豊かさにふれると、「モノからコトへ、コトからココロへ」と価値観が変わりつつあることに気づかされます。車道を作らず、道路全体を歩ける道にしたり、町のシンボルでもある鯉が泳ぐ瀬戸川を町民総出で掃除したりする。古川は、観光客の誘致ではなく「暮らす町」にこだわり、町民の結びつきを大切にしています。そこには、町づくりを通じて人をつくり、ココロをつなぐことを何より重視する価値観があり、持続可能な未来へのヒントがあるように思いました。

31年前にCELが報告した「ジオカタストロフィ」は人類の滅亡を回避する方策を提示したのではなく、99年先、自分の孫の孫の世代に地球規模で起こりうる破局を、同一地平の自分ごととして捉え、大胆に考え方を変えることを意図しました。幸せな未来を描き、そこに向けて、自分が何をすべきで、何ができるのか。まずは身のまわりから見直すことで、持続可能な未来への第一歩を踏み出せるのではないのでしょうか。